

令和 7 年度 稲生小学校 学校経営の改革方針

校長 長谷川 浩

1 学校教育目標

「人間性豊かで、たくましい実践力をもった子どもの育成」

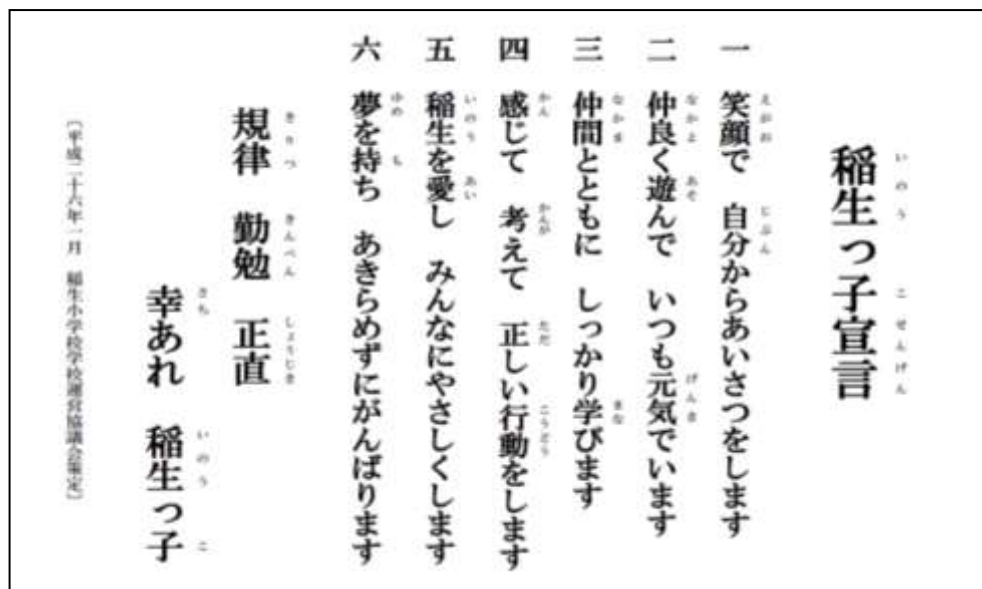
2 めざす学校像

「あいさつが響き合い 学ぶ喜びと思いやりにあふれる学校」

- ・地域や家庭とともにある学校づくり
- ・確かな学力・健やかな体を育む学校
- ・児童一人ひとりが大切にされる学校
- ・児童の成長を喜び、教職員自らも成長し続ける学校

3 めざす子ども像

- ①規律を大切にし、正しい行動をする子（規律）
- ②学びを大切にし、仲間とともに高まろうとする子（勤勉）
- ③感動を大切にし、思いやりの心を素直に出せる子（正直）
- ④生命を大切にし、健康に生きる子（健康）
- ⑤夢や目標を持ち、あきらめずにがんばれる子



4 めざす教職員

- ・教育に対する使命感と誇りをもち、子どもたちとともに学び続ける教職員
- ・子どもたち一人ひとりの思いに寄り添い、深い愛情を注ぎ続ける教職員
- ・「チーム稲生小」として、主体的・組織的に行動し、常に改善を試みる教職員
- ・コミュニティー・スクールの主体として、家庭・地域と一体となった教育活動を推進する教職員

5 経営方針及び達成方策

(1) 家庭や地域に信頼され、ともに創り上げる学校

- ・ 夢ある稲生まちづくり協議会、学校支援ボランティア等、地域との協働的な教育活動の推進
- ・ 教員が主体となった、地域の教育資源を活かした授業の創造
- ・ 家庭訪問等による学校・家庭間での子ども情報の迅速な共有。保護者との積極的な意見交換による信頼関係の構築、連携
- ・ メール配信等、ICT 機器を活用した学校情報の積極的発信

(2) 「次代を生きる力」を育む教育課程・授業の創造

- ・ 地域素材を活用した児童の探究的な学習の実現
- ・ 学ぶ喜びを実感できる授業づくり
(児童が主体となった対話的な学習、複線型授業の実現、一人ひとりの個性が尊重され安心してありのままの自分が出せ非認知能力が育つ学級づくり、読解力・作文力の育成、ICT 機器の効果的な活用、読書活動の推進)
- ・ 系統的・横断的なカリキュラム・マネジメントの推進
- ・ 学調・みえスタ・体力テストの結果分析による授業改善

(3) 子ども一人ひとりが大切にされる人権教育、安全安心な学校教育の推進

- ・ 特別支援コーディネーターを核とした組織的な特別支援教育推進体制の充実
- ・ 一人ひとりの思いに気づき、受け止め、ともに考える仲間づくり
- ・ 不登校の未然防止、再登校につながる子ども・保護者への支援の充実
- ・ 「いじめ防止基本方針」に沿ったいじめ防止対策の徹底
- ・ 防災・防犯・交通安全教育の推進と教職員・子どもの危機管理能力の向上

(4) 「チーム稲生小」として主体的・組織的に行動し、常に改善を試みる教職員・職場づくり

- ・ 互いに瞳を見て、笑顔で、「話す」「反応して聴く」職員室、会議＝明るく前向きな職場づくり
- ・ 遠慮・躊躇なく「分からないことは聞く」「困ったときには相談する」＝風通しのよい職場づくり
- ・ 自らの役割を自覚し、誰もが組織的・協働的に活動できる体制づくり
- ・ 多面的・多角的なフィードバックによって、やりがいや満足感、改善意欲を生む OJT・職場づくり
- ・ 積極的失敗を恐れず、歓迎し、常に改善を試みる職場文化の醸成＝「試す人になれ」
- ・ 業務の精選・効率化・平準化、行事等の分散化による時間外労働の削減

【総勤務時間の縮減に向けた取組】

- ・ 月 45 時間、年 360 時間を超える時間外労働者の年間の延べ人数:0 人
- ・ 1 人当たりの月平均時間外労働時間:30 時間以下
- ・ 休暇取得:各自が前年度日数を上回ることを目標に。
- ・ 設定日に定時退校できる職員の割合:90%以上
- ・ 60 分以内に終了する会議の割合(職員会議, 校内研修会を除く):100%